

個に着目した授業

丸本克巳

1. 個が生きる場作り

個が生きる授業においては、児童各自の持つ個人差に対応した学習が成立しなければならない。一つは、個人差を解消する指導で、他方は、個人差を生かす指導である。前者の指導では、例えば、漢字の読み書き・語句の意味調べ・文法の知識・音読朗読の技術・正確な認識などがあげられる。全ての子供を同じ目標に到達させようとするものである。後者では、それぞれの感想・多様で个性的な読み取り・視点・表現力などがあげられる。それぞれの子供を異なる目標に到達させようとするものである。学習者としての個は、生活体験などの違いから独自の思考法や認識方法を持っている。その違いを授業に取り入れることを通して、一人ひとりが価値ある個性の持ち主となるように授業を構成しなければならない。

授業では、一人ひとりの見方、考え方が互いに共鳴・対立・葛藤をくり返す中で深められ、新しい発見や創造へ進展する授業をめざしている。その中には、

- ・個の学習が保障される場
- ・個の考えが集団でもまれる場
- ・個自身が集団の機能によって育っていると自覚できる場
- ・個が成就感・成功感・満足感を感じる場

の場があることが望ましいと考えている。

2. 指導の実際

(1) 実践例1「マリモの秘密」(学図6下)

(指導計画……全7時間、指導学級……複式高学年6年生10名)

① 教材と目標

本教材は、自然界に見られる不思議な現象(マリモが浮き沈みする)を日常見られる類似の現象(ブドウの浮き沈み)と対応させながら、科学的に解明し、自然の神秘を明らかにした文章である。論理的思考能力が高まり、物事を深く追求しようとする態度が育ってくるこの時期に、正確な読解力を養い、科学的思考力を高める上で価値ある教材である。構成は、問題点の提示・事象や事実の説明・解答になっている。目標は次の通りである。

◎特殊な植物の生態に興味を持つと共に、生態の解明を通して、科学的な思考力を養う。

○「マリモの秘密」を読み取ることができる。

○問題点とその解明の要点を読み取ることができる。

○筆者の論の展開を読み取ることができる。

② 個人評価表を使った読み取りを深める指導

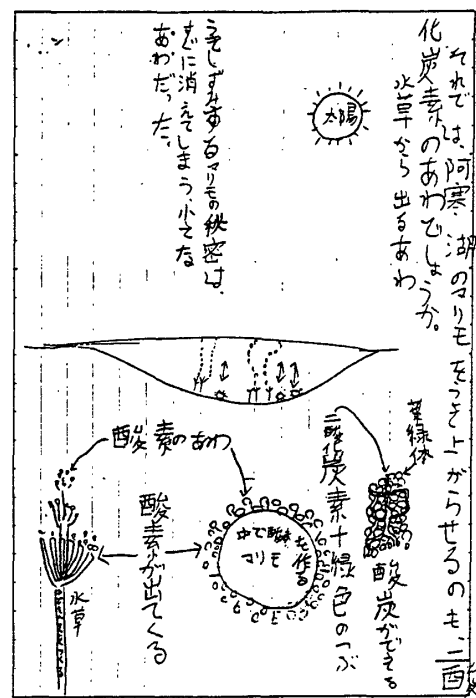
ア. 意味段落「実験 ブドウのうきしずみ」の指導

本文の音読に続き、一人ひとりが自分の読み取りをノートに絵・図・言葉で表す。OHPで発表する。自分との違いを見つけ、誤った読み取りを訂正する。訂正・付け加えは後から分かるよう色を変えて書き込む。ノートを回収し、教師が観点を決め個人の読み取りを評価しておく。(個人評価表 表1) キーワード“秘密はあわ”に気づいているとか、あわの説明を上からの図を用いて工夫している子などを記録する。一人ひとり、読み落としや読み違いをチェックしておき、次時の指

表1 (個人の読み取りをまとめたもの)

児童	葉緑体	日光太陽	砂糖酸素	酸素のあわ	内側	水面うく	秘密あわ
1	○	○	○	○	○	○	○
2		○	○	○		○	
3		○	○	○	○	○	○
4		○	○	○		○	
5		○	○	○		○	○
6	○	○	○	○	○	○	○
7	○	○	○	○	○	○	
8		○	○	○		○	
9		○	○	○	○	○	○
10	○	○	○	○	○	○	○

図1 水草のあわ



導に役立てる。

イ. 意味段落「水草から出るあわ」の指導

ブドウのうきしずみ を炭酸水のあわで説明し、阿寒湖のマリモのうきしずみに結び付けようとする筆者の論がまとめた段落である。「実験 ブドウのうきしずみ」の指導と同様に個人評価表を用いて指導した。要点、核となる言葉として、葉緑体、日光(太陽)、砂糖と酸素、酸素のあわ、マリモの内側、水面に浮く、秘密はあわを考えた。「実験 ブドウのうきしずみ」で教師がとらえた一人ひとりの目標到達度から、個に応じた指導を行う。個人差を解消する指導、漢字の読み書き・語句の意味調べ・文法の知識・音読朗読の技術・正確な認識などを授業に取り入れる。特に、正しい音読は繰り返し行った。ここでの正しく読み取る力は、前回に比べ高くなっている。日光(太陽)、砂糖と酸素、酸素のあわによってマリモが浮き沈みすることを考えると要点はほとんどとらえていると言える。1児は、特に自信を持ち、毎時間進歩している。コップの絵から出発し、言葉に着目し、要点をつかむことができた。1児が水草のあわをまとめた読み取り図は、核となる言葉を的確にとらえるだけでなくわかりやすい絵でまとめることができている。(図1)

(2) 実践例2 特設単元「言葉の意味と使い方 ことわざ」

(指導学級……複式高学年5年生9名・6年生10名)

① 単元について

「ことわざ」は、むかしから言い伝えられてきた短い言葉で、たくみなたとえや、人生の教えなどを含んだ言葉である。ことわざを大きく分けると、①人を批判するもの、②人生の教えを含んだもの、③くらしの知識を教えるもの、④たくみなたとえをつかったものの四種類がある。「ものはいふやうで角が立つ」というが、人と人との関係は、言葉の使い方一つでうまくもなれば気まずくなることもある。言葉の知識が増し、使い方ができるようになるこの時期に、「ことわざ」の表現や意味に関心を持たせる学習は、生活を豊かにする点でも意義がある。

ことわざとよく似た言葉に金言、格言、慣用句、故事成語がある。

ことわざ：古くから人々に言いならわされたことば。教訓・諷刺などの意を寓した短句や秀句。

金言：古人の残した、模範となる尊い言葉。格言。金句。

格言：深い経験を踏まえ、簡潔に表現したいましめの言葉。金言。

慣用句：二語以上が結合し、または相応じて用いられ、その全体がある固定した意味を表すもの。

故 事：昔から言い伝えられて興味やいわれのある事柄，またはその語句。⁽¹⁾

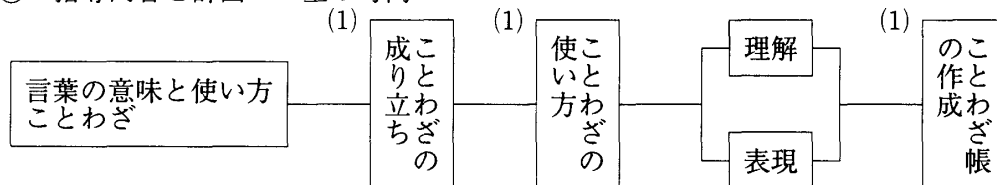
意味は理解できるが，実際の言葉に当たるとどれとも識別しにくいものがある。

近ごろ，児童の言葉の乱れが問題になっている。単語発言，語尾不明瞭，接続詞だけの会話などが目立ち，日本語の持つ細やかで意味深い言い回しが欠けている。そのため，日本語の美しさや古くからの和歌・俳句・格言・ことわざなどにみられる簡素で美しいひびきを持った表現が見直されるようになった。本学級でも，言葉の乱れは気になり，自分の考えを相手に伝える言葉本来の機能を十分発揮していない状態がみられる。「ことわざ」に関する理解は，学年差・個人差が大きい。「ことわざ」の表現は，調子がよく発音しやすくなっている。口から口へと伝えられたもので，言いやすく覚えやすい上に，耳で聞いても分かりやすくなるように，表現の工夫がなされている。表現の工夫や意味を理解させ，それをふまえた文章表現をすることは，表現技法を身につけるだけでなく，生活に役立てる効果も期待できる。

② 指導目標

- ことわざ・慣用句などに興味を持ち，語句への関心を高める。
- ことわざを使い，楽しんだり生活に役立てたりすることができる。

③ 指導内容と計画……全3時間



④ ことわざの使い方の指導

ア. ことわざ当てクイズ

ことわざの意味に合った話を聞かせ，どんなことわざか当てさせる。絵を提示し，状況からことわざを考えさせる。頭の部分を言い，続きを言わせる。数字の入ったことわざの数を当てさせる。

例：わしは，じつに頭がよい。もう天才だ。地球の天才 宇宙じゃまあま。

……………井の中の蛙 (2)

骨をおって（苦労して）いろいろかついで山登り。しかし，おどろいたことに山のてっぺんになんでも屋があった。

……………骨おり損のくたびれもうけ (2)

かわいい子には……………

旅をさせよ

石の上にも……………

三年

ことわざに関する知識・理解で個人差を縮める手だてとして，資料「ことわざ集」⁽³⁾を配布した。意味を理解せぬまま表現することは抵抗があるので，学習の手助けとした。絵やクイズを使った導入は，学習を意欲的にした。

イ. 意味の理解

(ア) 例文作り

事前アンケートの中からよく知られている3つのことわざを取り上げた。

○ 急がば回れ ◇ さるも木から落ちる △ ねこにこばん

の例文を考える。

例文：

○ ……初めの文……ぼくは，たまに朝早く学校に来る来るけど，いつもかぎがかかっているから，二階を回って来る。…………個人指導（状況を詳しく）の後……ぼくは，早く教室に行こうと思って三階まで行きました。でも三階のドアにかぎがかかっていました。二階にもどるとかぎがあいっていました。はじめから二階から行けば良かったと思いました。（6年 MH）

◇ あの人は、いつでも足が速くかけっこも一番だけど、今日のかけっこでころんでしまい最後になってしまった。(5年 EK)

△ 妹にせっかいいい本の話をしてあげたのに、ちっとも聞こうとしないのでねこに小判だ。(5年 MT)

(イ) クイズ作り

・どんなことわざかな

・友達のたけし君は、体はでかくたよりになるかと思ったら、ぜんぜん役にたたない
……………うどの大木 (6年 EM)

・幼い時まわりから教わったことは年をとっても忘れない。
……………すずめ百までおどり忘れず、三つ子のたましい百まで (6年 RH)

・新しく作ったことわざ

・悪いガキに小言を言っても、なれているので効き目がない
……………悪ガキに小言 (5年 RY)

・速いやつに薬を与えともっと速くなる(鬼に金棒にひっかけて)
……………ベン＝ジョンソンに薬 (6年 SF)

3. 考察

(1) 個人評価表

1時間1時間で一人ひとりの全てをつかむことは理想であるが困難である。単元や題材をしぼり、伸ばしたい技能の観点を決めて使えば、個人差を解消する指導に生かすことができる。効果的な活用をするには、到達目標・児童の実態(事前・本時)・児童の態度・学習スタイル・学習意欲などの項目を使い分ける必要がある。現在使用しているものは、座席表と一体化した表に観点を決めて書き込むものである。発表だけでは、見えない個の力がつかめ、個が生きる授業の一つの手だてと言えるであろう。

ただ、個人評価表は、毎時間事細かに記入するには負担が大きいし、処理も煩雑である。学級や目的に合うものを工夫したい。

(2) 授業の改善点

① 「マリモの秘密」

説明的文章を読むと未知の情報を知る喜びがある。児童の第一次反応には、多く初めて知ったことが表れる。この反応から読みの方向を見いだすと、内容理解という点ではある程度深めることができる。説明的文章の指導では、内容理解から、説明のし方(述べ方)の理解、さらに一歩進めて、自分で獲得した説明の仕方を自分のものとしてできるようにさせることも重要であると考えられる。学習のめあて設定方法は、教師設定型・児童設定型・両者融合型がある。筆者の論の展開を読み取る場では、教師が読みのめあてを設定し、疑問を持ちつつ読み進めるようにさせた。「マリモの秘密」の内容理解では、絵や図を用いて正しく読み取ることができるようさせた。筆者の論の展開を読み取る場所では、教師が読みのめあてを示し、疑問を持ちながら読みすすめるようにした。

ブドウの浮き沈みと炭酸水のあわの関係、水草から出るあわにマリモの秘密があることを絵図に表す学習は、一人ひとりが没頭していた。論の展開の読みでは、めあては教師が出した。1. 筆者は、なぜ、ブドウの浮き沈みの実験を紹介したのだろうか、2. “炭酸水のあわ”の説明は、マリモの秘密を説明するのにふさわしいか。これに対して、全員が自然界に見られる不思議な現象を日常見られる類似の現象と対応させながら、科学的に解明し、自然の神秘を明らかにした筆者の意図を読み取っていた。1. マリモによく似たブドウの実験で読者に考えさせた・ブドウは、マリモに

似ている丸い形だし、重さ堅さも適していた。マリモを浮かせるのは、酸素のあわだから。

2. ブドウに炭酸水のあわがついて浮き、あわが消えて沈むのが、まるで阿寒湖のマリモのようだから・あわによって浮き沈みするのが同じ。浮き沈みの秘密があわにあり、身近な類似現象と対応している点を読み取った子が10名中9名である。あわに着目しないと炭酸水と酸素のあわは違うという読みに終わっていた。

② ことわざ

ア 個の学習が保障される場

ひとり調べの時間をしっかり取ったのと、ことわざ集や辞典などの資料を個に応じて準備したことで、集中し熱心に取り組めた。導入時の教師提示物が興味をひくものであり、学習結果が明白なため意欲が高まった。⁽⁴⁾

イ 個の考えが集団でもまれる場

複式学級の特徴は少人数にある。個の学習態度はしっかりしている。授業過程に、個の考えを出し、「確認」「修正」「拡充」する場を位置づけた。個が生きる上で大切であるが、意見を出すことへのためらいや失敗を恐れる雰囲気があり、集団でもまれることが充分でなかった。

ウ 個自身が集団の機能によって育っていると自覚できる場

個の考えが集団でもまれる場が機能しなかったため、集団で深め合ったり、もう一度自己を見直したりすることが不十分であった。

エ 個が成就感・成功感・満足感を感じる場

児童個々にめあてがはっきりしている、学習意欲が持続し活動が主体的である、めあて解決が自己評価できるということから個人差はあるが、一人ひとりが分かる・できるを感じたと言える。⁽⁴⁾

(3) 個の把握

① ことわざアンケート (図2) (比較対象学級 複式高学年5年生9名・6年生10名, 6年1・2組73名, 5年1・2組70名, 大学4年生36名)

ことわざの定着を知るための6問題をテスト形式で行った。そのうち4問をのせる。複式高学年5年生9名・6年生10名は、ことわざの授業2時間を終えてから答えている。

図2

1. 次の()に言葉を入れて正しいことわざにしなさい。
- ① ()を聞いて()を知る (十)
 - ② うりのつるに()はならぬ (なすび)
 - ③ 石の上にも() (三年)
 - ④ 光陰()のごとし (矢)
 - ⑤ 立つ鳥あとを() (にごさず)
 - ⑥ とびが()をうむ (たか)
 - ⑦ ()に交われば赤くなる (朱)
 - ⑧ 習うより() (慣れよ)
 - ⑨ 人のふり見て()直せ (わがふり)
 - ⑩ 恩を()でかえす (あだ)

2. 次のことわざの意味を書きなさい。

- ① のれんにうでおし
- ② なさけは人のためならず
- ③ 百聞は一見にしかず
- ④ 船頭多くして船山に登る

3. 次の語句を用いて、四つのことわざをつくり

- | | | |
|-------|-----|-------|
| なつもれば | 一寸の | なかりにも |
| 忘れず | 五分の | ちりも |
| あり | 親しき | 百まで |
| 虫にも | なる | たぐましい |
| 山と | 礼儀 | おどり |
| すずめ | | |

1	ちりもつもれば山となる
2	すずめ百までおどり忘れず
3	一寸の虫にも五分のたましい
4	親しきなかにも礼儀あり

4. 次の意味になることわざを書きなさい。

- ① 身体ばかり大きくて役に立たないこと
- ② 強い上にさらに強さが加わること
- ③ 名人でも得意なことに失敗すること
- ④ りっぱな人は自分の身を慎み危険なことや場所には近づかないものだ
- ⑤ 人に嫌われるような者が世間ではばをきかせている

②データ処理⁽⁵⁾

ア. 学習効果が表れる。

「ことわざ」学習を終えた学級では、会話の中に出てくる頻度が高くなる。言葉の使い方一つで生活を豊かにする場面が多くなる。

5年(習う前) 0.310, 5複(習った後) 0.560, 6年(習う前) 0.629, 6複(習った後) 0.709, 大学生0.749。

イ. 生活年齢が上がると正答値が高くなる。

言葉の知識が増し、生活範囲が広がるとともに、使い分けができるようになる。

5年79名0.338 6年83名0.637 大学生36名0.749

ウ. 難解な問題と珍回答

1-⑧ 習うより慣れよ(学べ, 見ろ, 調べる, 経験, 聞け, 行動)

1-② うりのつるになすびはならぬ(かぼちゃ, 実, すいか, かき)

2-② なさけは人のためならず 言葉通りの意味 なさけは人のためにならない 41名

3 (新説) ちりもつもれば百となる すずめのたましい百まで

4-④ 君子危うきに近寄らず 5年-正答値 0.038, 6年-0.181, 大学生-0.333

③ 何をきたえるか

他の成績資料と比較した場合、上位と下位の名前がそれぞれ共通するしている場合が多い。言語生活が、ことわざの理解に影響している。下位の子は、意味の理解ができていない。2の問題で0点をとった子は、5年生では39名、6年生で18名いる。できるできない、分かる分からないを把握しただけでは、意味がない。②-アから、学習効果があることが明らかのように、授業の中に個人差をなくす場と個人差を生かす場を、教師が意識的に設定しなければならない。

なさけは人のためならず の意味は、隠された表現を教える必要がある。百聞は一見にしかず のしからずは、しくの未然形という文法が必要である。典型的な例をいくつか上げ、興味を持たせることが大切である。

ことわざは、使い方次第で、人を説得する大きな力になることを体験させたい。使い分けることができれば、表現に役立つことも分らせたい。むかしから言い伝えられてきた短い言葉で、教訓に富む言葉である。先人の知恵を受け継ぐため意味を正しく教え、生活に役立てていかなければならない。

4. まとめと課題

個の考えが確立しても、一斉指導で効果を上げるためには集団の機能が不可欠である。疑問・間違い・多様な考えなど個の発想を出し合い、深め合い、高め合う受容的な風土を持った学習集団が、個が生きる授業を創ると言える。一人ひとりが価値ある個性の持ち主となるように、個と集団の関わり方を考えていきたい。

- (1) 広辞苑 第2版 岩波書店
- (2) 日本ことわざ物語 玉川大学出版部
- (3) 学習教科事典 ぐんぐん 小学館
- (4) 校内授業研究観察記録のまとめ 1989.11.8
- (5) LOTUS 123

表2 正答値

	5-70名	5-複	6-73名	6-複	大学	6
1 ①	0.700	1.000	0.836	0.800	0.861	
1 ②	0.171	0.444	0.603	1.000	0.333	
1 ③	0.900	0.889	0.945	1.000	0.972	
1 ④	0.129	0.111	0.507	0.400	0.944	
1 ⑤	0.329	0.889	0.753	0.600	0.889	
1 ⑥	0.243	0.333	0.808	0.900	0.944	
1 ⑦	0.157	0.333	0.753	1.000	0.972	
1 ⑧	0.057	0.000	0.137	0.000	0.556	
1 ⑨	0.286	0.444	0.699	0.700	0.750	
1 ⑩	0.286	0.667	0.658	0.700	0.944	
1 平均	0.326	0.511	0.670	0.710	0.817	
2 ①	0.243	0.444	0.274	0.600	0.444	
2 ②	0.029	0.000	0.370	0.600	0.444	
2 ③	0.314	0.889	0.726	1.000	0.861	
2 ④	0.171	0.000	0.411	0.200	0.361	
2 平均	0.189	0.333	0.445	0.600	0.528	
3 ①	0.800	1.000	0.986	1.000	1.000	
3 ②	0.186	1.000	0.562	1.000	0.750	
3 ③	0.429	0.889	0.767	0.900	0.833	
3 ④	0.257	0.667	0.712	0.800	0.972	
3 平均	0.418	0.889	0.757	0.925	0.889	
4 ①	0.271	0.889	0.726	0.900	0.722	
4 ②	0.343	1.000	0.822	0.900	0.694	
4 ③	0.743	1.000	0.932	1.000	0.972	
4 ④	0.043	0.000	0.205	0.000	0.333	
4 ⑤	0.043	0.000	0.233	0.300	0.667	
4 平均	0.289	0.578	0.584	0.620	0.678	
1-5平均	0.310	0.560	0.627	0.709	0.749	